

健康経営とSDGs 対応を加速させよう

前回、企業の携帯型心の市街地等に整備できれ
電計測定を勧めたが、地 ば、駅周辺の健康予防機
方や地域での取り組みに 能を充実させることがで
も目を向けたい。

視点を交えるが、地方 地域密着のサービスと
でも自動体外式除細動器 して、携帯型心電計を商
(AED) はここ数年で いけば、健康の予防地域
大幅に設置されてきてい として地方でも違いのあ
る。AEDは緊急時の心 する住民サービスを提供す
臓蘇生に役立つものであ ることにもなる。ただ、
るが、あくまでも緊急措 簡単に携帯型心電計を設
置であり操作不慣れでは 置していくといつてもそ
置度もある。その分、 置していくといつてもそ
携帯型心電計の設置は突 置していくといつてもそ
然死の未然防止策とな 置していくといつてもそ
り、商店街などの駅周辺 置していくといつてもそ
域の協力なしで行政の力

だけでは増やしていくこ
とはできない。

そこで、企業や地域の
商店などの協力を要請す
る上で、地域の活動にも
貢献する国連の持続可能
な開発目標(SDGs)
に対応したことを考えて
いく。例えば、全国AED

D設置マップが整備され
ているように、心電図測
定できる場所をマップ化
していくことが必要だ。
これも単独でやっていく
には無理が生じる。

一方、全国の駅周辺の
車椅子ルートマップの普
及を行っている活動もあ
る。現在、近畿圏及び、
東京、仙台、名古屋、福
岡を中心に約350駅ま
で整ってきたが、まだ整
備はこれからだ。車椅子
ルートマップはベビーカー
利用者や大きな荷物の
運搬などにも有効で、S
DGS11.7「女性、子
供、高齢者及び障害者を
含め、人々に安全で包摂
的かつ利用が容易な緑地
や公共スペースへの普遍
的アクセスを提供」に合
致する。

企業や地方・地域が車
椅子ルートマップ普及活
動に協賛し、心電図測定
の普及をマップ上に提供
できれば、企業広告とし
て地域密着の社会貢献事
業になる。心電図測定を
る。特にモノづくり中心
の企業は、投資金額を抑
えてもできる活動にな
る。

経営士 の提言

心電計、地域に整備 / 車椅子ルートマップと一体で普及・掲示を